

# 岩木健診 機器開発に寄与

弘前大学が弘前市岩木地区で実施している「岩木健康増進プロジェクト」で蓄積された健康ビッグデータを活用し、国内大手企業が最新の健康デバイスを開発する動きが広がっている。スマートフォンで人を撮影すれば内臓脂肪を測定できるアプリを開発している花王は、精度向上に岩木健診のデータを活用。NECは顔から得られる情報に基づいて、動脈硬化や浮腫(むくみ)を推定するアプリの研究を進めている。企業側は「健康づくりの機運を一層高めたい」と話し、弘大関係者も「社会に還元できるよう、今後も連携を深めたい」と意欲を示す。

(菊谷賢)



顔の画像から脈拍や血中酸素などを推定できるアプリのスマート画面上。開発したNECは岩木健診のデータを活用し、動脈硬化や浮腫を推定できる機能を研究中だ

## 内臓脂肪、動脈硬化測定… 国内大手 データ活用



約3千項目の健診データを集めることで、岩木健診増進プロジェクト健診。弘前大学が弘前市岩木地区で2005年から継続して実施している住民参加型の健康調査。病気予防や健康寿命延伸につながる健康施策の実現などを目的としている。検査項目は身長・体重・血液・野菜摂取量・運動機能・認知機能・生活習慣など約3千に及ぶ。25年は、岩木地区以外の市民を含め約1300人が参加。岩木健診のビッグデータを基に、弘大は啓発型健診「QOL健診」を開発している。

木健診の会場(2025年5月31日)

花王が2024年に開発した非接触内臓脂肪測定器「NABOB®-eye(ナイボ・アイ)」は、スマートフォンで対象者の全身を正面と側面から撮影することで内臓脂肪量の指標が画面に表示される。花王が2024年に開発した非接触内臓脂肪測定器「NABOB®-eye(ナイボ・アイ)」は、スマートフォンで対象者の全身を正面と側面から撮影することで内臓脂肪量の指標が画面に表示される。

従来の接触型測定器ほど同等の精度を実現しており、その背景には、岩木健診のデータを解析し、検証した結果があるという。内臓脂肪は血圧や血中脂質、血糖値の異常を招き、動脈硬化的リスクを高める要因となる。脳卒中や心疾患、糖尿病合併症の発症にもつながりやすく、県民

花王が2024年に開発した非接触内臓脂肪測定器「NABOB®-eye(ナイボ・アイ)」は、スマートフォンで対象者の全身を正面と側面から撮影することで内臓脂肪量の指標が画面に表示される。花王が2024年に開発した非接触内臓脂肪測定器「NABOB®-eye(ナイボ・アイ)」は、スマートフォンで対象者の全身を正面と側面から撮影することで内臓脂肪量の指標が画面に表示される。

花王が2024年に開発した非接触内臓脂肪測定器「NABOB®-eye(ナイボ・アイ)」は、スマートフォンで対象者の全身を正面と側面から撮影することで内臓脂肪量の指標が画面に表示される。

花王が2024年に開発した非接触内臓脂肪測定器「NABOB®-eye(ナイボ・アイ)」は、スマートフォンで対象者の全身を正面と側面から撮影することで内臓脂肪量の指標が画面に表示される。

花王が2024年に開発した非接触内臓脂肪測定器「NABOB®-eye(ナイボ・アイ)」は、スマートフォンで対象者の全身を正面と側面から撮影することで内臓脂肪量の指標が画面に表示される。

花王が2024年に開発した非接触内臓脂肪測定器「NABOB®-eye(ナイボ・アイ)」は、スマートフォンで対象者の全身を正面と側面から撮影することで内臓脂肪量の指標が画面に表示される。

花王が2024年に開発した非接触内臓脂肪測定器「NABOB®-eye(ナイボ・アイ)」は、スマートフォンで対象者の全身を正面と側面から撮影することで内臓脂肪量の指標が画面に表示される。

花王が2024年に開発した非接触内臓脂肪測定器「NABOB®-eye(ナイボ・アイ)」は、スマートフォンで対象者の全身を正面と側面から撮影することで内臓脂肪量の指標が画面に表示される。

花王が2024年に開発した非接触内臓脂肪測定器「NABOB®-eye(ナイボ・アイ)」は、スマートフォンで対象者の全身を正面と側面から撮影することで内臓脂肪量の指標が画面に表示される。

花王が2024年に開発した非接触内臓脂肪測定器「NABOB®-eye(ナイボ・アイ)」は、スマートフォンで対象者の全身を正面と側面から撮影することで内臓脂肪量の指標が画面に表示される。